

聖母愛児園報

2020年9月15日発行
〒231-0862
横浜市中区山手町68

話し合いの文化を育て

子どもたちと共に生活を創る

コロナ感染症の影響

不便を我慢したよ

話し合いの文化を育て

子どもたちと共に生活を創る

事業報告書より

ホーム会の成果報告

ホーム運営を円滑に行う事、子ども達からの要望を吸い上げる事を目的として、月に1度のホーム



進級入学祝い

会を実施しました。ホーム会で子どもたちから上がった要望について、ホーム単位で解決できるものに関しては担当者間で共有し、該当する子どもたちと話し合いを重ねてきました。

聖母愛児園全体に関わる事柄については、子ども運営委員会に議題として上げ、解決を図りました。

今後についても定期的なホーム会実施の必要性を感じています。が、ホーム会の実施が出来ていない月もあつたので、ホーム会実施の徹底が今後の課題として残りました。更にホーム会の在り方、その意味合いを職員同士、子どもた

楽スパ



ちとも議論の場を設定する必要性を実感しています。

子ども運営委員会の成果報告

各ホームの代表者を委員として選出し、月に1度の頻度で定例会を実施しました。ホーム会で解決できない事柄を持ち寄り、子どもたち主体で話し合いを行うことで聖母愛児園での生活がより良いものになる様、努めました。

しかし、昨年度から継続して委員会に所属している児童は慣れが生じてしまい、話し合いができる雰囲気作りに苦勞することもありました。定例会の雰囲気作りへの工夫を検討し、話し合いの場として機能できるように努めています。

定例会以外にも社会貢献活動の一環として、8月に横浜中華街の清掃活動を行いました。以前からつながりのある横浜中法人会との連携を図り、子どもたちに、より馴染みの深い中華街を清掃活動の場と設定しました。

高校生会は例年通り、月に1回の頻度(年間12回)で活動を実施しました。また、新高1生が多い上に、中学卒業時点で携帯電話を所持できるようになっているた

め、新高1生が高校入学を迎える前に、一度集まる機会を設け、携帯電話に関する諸注意やトラブル事例を伝えました。

今年度はブリッジフォースマイルと連携し、自立に向けてセミナー受講を複数回実施しました。自立サポートという点で様々な取り組みを行っているため、今後も連携を強化していきたい。また、自立サポート委員会やフェアスターと連携し、各活動の報告や、高校生たちへの自立に関する情報提供や委員会の役割説明などを行っています。

各月の活動は、会議室にてセミナーやグループディスカッション等の講義と、釣りやBSやキャンプ等のアウトドア活動と、バザーやあつまろう会等の園内行事への高校生会としての参加という、大

◇子どもたちの様子◇

聖母愛児園イベント記録
<http://seiboajien.com/blog/>
聖母愛児園Facebookページ
<https://www.facebook.com/seiboajien>

別して三種の活動を実施。それらの活動を行いつつ、生活に関する高校生からの意見や要望を吸い上げて、運営会議で検討する等の対応を取りました。

具体的には、消費税増税に伴い、高校生の被服費を増額して欲しい、帰園した際に門扉が施錠されており、暗号キーが分からないので中に入れない事が困っているの、で何とかして欲しい、等の要望が挙がっていました。

レクリエーション活動も、高校生会にて皆で内容を検討して実施しました。希望が挙がっていたものの実施できなかった活動も複数

あるため、次年度に引き継いで企画実施していけると良いです。

自立支援事業の充実

①対象児、対応職員への情報提供。
就労、進学を検討、もしくは今年度卒園児童に対し必要な情報を提供。

提供情報は、進学後の諸費用、就労時支度に必要な諸費用、必要な行政手続き等、児童が想定する卒園後に沿って現実的な情報を提供しました。

②社会体験ツアーの実施報告と成果
今年度もフェアスタートの協力を得て、高校2年生2名を対象に社会体験ツアーを実施しました。

多様な企業の雰囲気を見て、今後の進路選択の学びとなったようです。また、ビジネスホテルにて一人一部屋で一泊する事で、寂しさの体験、社会の体験に繋がる取り組みを実施しました。今回は、企業の方々とのやり取りの中で、社会に出ること、自立などの話が膨らみ、進路のみならず退後の生き方を考えるいい機会とな



キャンプで楽しむ

りました。また、社会体験ツアーをきっかけに、資格取得の勉強のフォローをしていただけることになった子どももあり、様々な効果を生んでいます。

③アルバイトを通しての子どもたちの反応と効果
高校3年生女兒に就労を前提としたアルバイトを紹介し、内定を頂きました。福利厚生を含む労働環境も十分に配慮を頂いており、児童も通常の内定と比較し、不安要素が取り除かれていました。

新高校1年生児童に対し、対応職員にアルバイトを利用したインケアに関わる情報提供を行っていきます。今年度もアルバイトを始め

た児童が大半であったものの、児童のコミュニケーション能力、マッチングの低いアルバイト先を選択したケースもあり、早期にアルバイトを切り替える事例も見られました。適切な促しを行い、新しいアルバイトで勤務しています。基本的には近隣のアルバイトを奨励し、施設とアルバイト間で連携がしやすい配慮をしました。

コロナ感染症の影響

コロナ感染症の影響で、学校休校状態が続く、職員の勤務は、業務負担を強いる態勢で、大変でしたが、コロナによる不便さを子どもたちも職員も共に我慢しながら、日々の生活を過ごしてまいりました。7月に、やっと学校が始まりました。いつもの日常が戻りました。

ステイホームと言う、いつもと違う環境の中、大変な状況を「乗り越える」と言う経験をしました。短い夏休み、さすがにイベント無しでは、さみしすぎるので、スポーツやアスレチック、映画、キャンプなど、それぞれのホームで

趣向を凝らし楽しみました。

夏は、やっぱりプール。色々な事に我慢を強いていますが、水遊びが出来ない夏は、夏ではない。

少ない人数でのプール利用、水の消毒、もちろん体温測定や手の消毒など、出来る限りの対策を講じ、今年もプールを楽しみました。

プール遊び



子どもたちの一言

キャンプ場で、緑に囲まれた場所に座り、鳥のさえずりを聞きながら「自然好きなんだよねー」とつぶやく子どもの姿。素敵だと思いませんか。その台詞に導いた職員さんの働きも素敵です。

つくしのアスレチック

